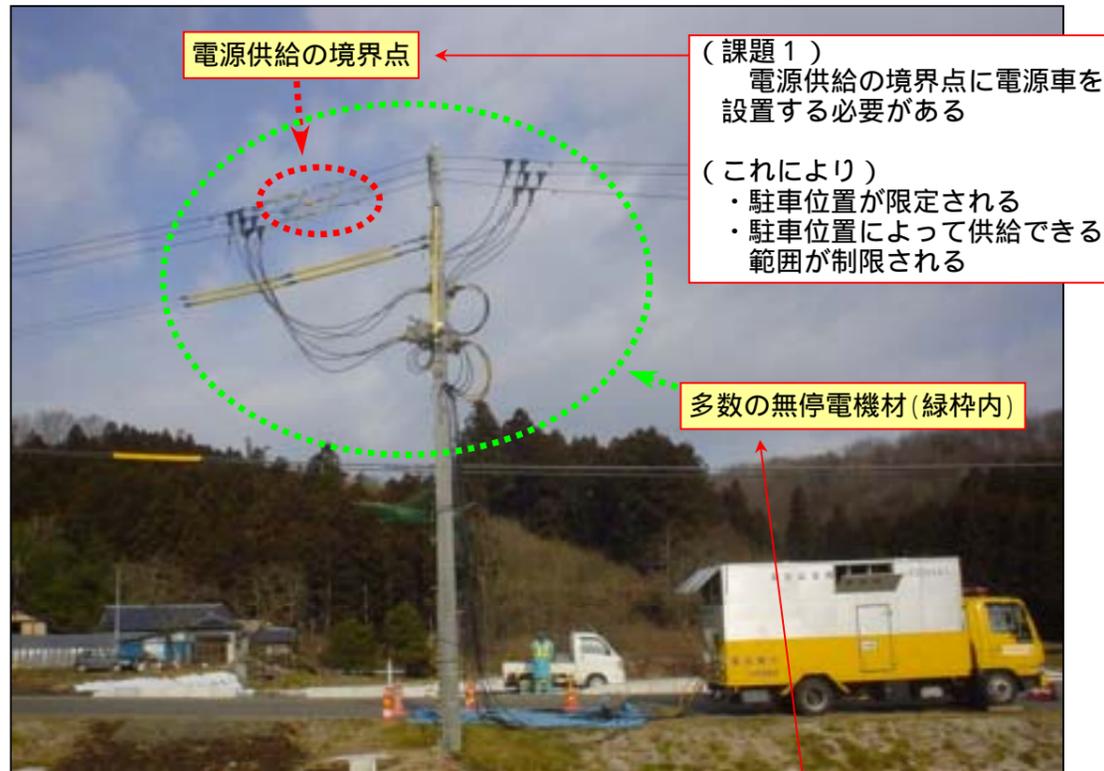


高圧応急用電源車での作業状況（新旧比較）

1. 従来型

< 作業状況の全景 >



電源供給の境界点

(課題1)
電源供給の境界点に電源車を設置する必要がある

(これにより)
・駐車位置が限定される
・駐車位置によって供給できる範囲が制限される

多数の無停電機材 (緑枠内)

< 車両後部 (ケーブル部) の状況 >



(課題2)
工事用開閉器等多数の無停電機材が必要である

(これにより)
・事前準備作業に時間を要している
・無停電工法工事費がかかる

ケーブルが6本必要

(課題3)
車両重量が重い

(これにより)
・工具や資機材等の積載、運搬がまったくできない

2. 新型

< 作業状況の全景 >



電源供給の境界点は離れた電柱にある区分開閉器

(効果1)
適用範囲を大幅に拡大することができる

(具体的には)
電源供給の境界点に電源車を設置する必要がないため
・駐車位置は自在に選定できる
・駐車位置によって供給できる範囲が制限されない

(効果2)
お客さまサービスの向上と作業の効率化が図られる

(効果3)
コストの低減が図られる

(具体的には)
工事用開閉器等の無停電機材が大幅に削減できるため
・2~3時間/個所の作業時間短縮
・約4億円/年のコスト低減 (全数更新配備完了時)

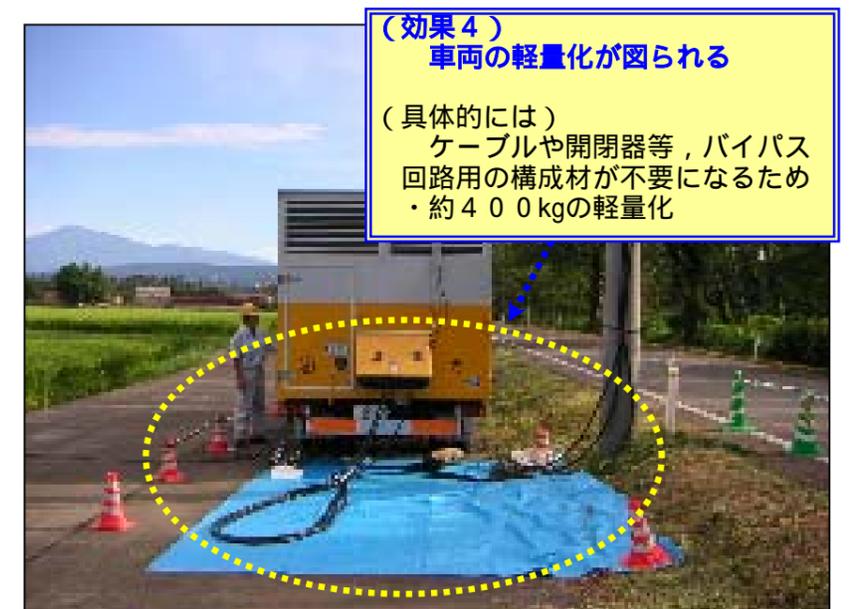
< 区分開閉器個所の状況 >



新型センサ

同期調整装置

< 車両後部 (ケーブル部) の状況 >



(効果4)
車両の軽量化が図られる

(具体的には)
ケーブルや開閉器等、バイパス回路用の構成材が不要になるため
・約400kgの軽量化